

国際シンポジウム

# 証言の時代とそれ以前

～フランスと日本の事例から～

Colloque international : L'ère du témoignage et avant

日時：2018年12月22日（土）14時00分～  
(20分前に開場)

会場：岩手大学 人文社会科学部 1号館2階  
第2会議室

主催：岩手大学人文社会科学部

共催：ボルドー・モンテーニュ大学「モデルニテ」

問合せ：フランス文学研究室（中里）

\*参加無料，事前予約不要

20世紀は「証言の時代」と言われることがある。それは、特に世界大戦期の諸事件を生きた当事者たちが、さまざまな形の「証言」（日記、回想記、詩、小説、映画、演劇、等）を残したためである。21世紀に入ってから、エレヌ・ペールの日記やアンドレ・シュヴァルツ＝バルト『暁の星』など、20世紀の出来事をめぐる当事者のテキストが刊行されており、さらなる研究の余地がある。一方、世界大戦期以前にも、数は少ないものの、「証言」という観点から再発見すべきテキストが残された。本シンポジウムでは、複数の事例を通して「証言の時代」と「それ以前」を考えていく……

問題提起 14:00～14:20 中里まき子（岩手大学）★

基調講演 14:20～15:30 エリック・ブノワ（ボルドー・モンテーニュ大学）  
**マルク・ブロック（1886-1944）：二つの世界大戦の歴史家・証言者**  
司会・講演和訳：中里まき子（岩手大学）

休憩 15分間

招待講演 1 15:45～16:30 津森圭一（新潟大学）  
**「大聖堂の死」を前にしたプルースト** ★  
司会：川村和宏（岩手大学）

招待講演 2 16:30～17:15 熊谷謙介（神奈川大学）  
**「無常」から「非情」へ —— カタストロフィーを語る堀田善衛** ☆  
司会：高橋愛（岩手大学）

18:30～20:30 発表者・司会者のための懇親会

☆：日本語 ★：日仏両語

## Colloque international :

# L'ère du témoignage et avant

On peut qualifier le 20<sup>ème</sup> de l'ère du témoignage car les gens qui ont vécu des événements de masse, comme les guerres mondiales, ont parfois témoigné par divers moyens (journal, mémoire, poème, roman, film, théâtre, etc.). Au 21<sup>ème</sup> siècle aussi, des écrits de témoignages du 20<sup>ème</sup> siècle continuent à paraître (Le journal d'Hélène Berr, *L'étoile du matin* d'André Schwarz-Bart, etc.). En revanche, il y a des textes, écrits avant le 20<sup>ème</sup> siècle, et que l'on peut redécouvrir du point de vue de témoignage (Mémoires de Mme Roland, etc.) Dans ce colloque, nous allons lire plusieurs textes afin de reconsidérer « l'ère du témoignage » et « avant », et d'établir une généalogie du témoignage.

---

**Introduction 14h 00** Makiko NAKAZATO (Université Iwate) ★

**Conférence plénière 14h 20** Éric BENOIT (Université Bordeaux Montaigne)  
**Marc Bloch (1886-1944), historien et témoin de deux guerres mondiales**  
Présidente : Makiko NAKAZATO (Université Iwate)

**Conférence 1 15h 45** Keiichi TSUMORI (Université Niigata)  
**Proust devant « la Mort des Cathédrales »** ★  
Président : Kazuhiro KAWAMURA (Université Iwate)

**Conférence 2 16h 30** Kensuke KUMAGAI (Université Kanagawa)  
**De l'« impermanence » à l'« impitoyable »**  
**– Hotta Yoshie, narrateur des catastrophes** ☆  
Présidente : Ai TAKAHASHI (Université Iwate)

☆ communication en japonais      ★ communication en japonais et en français

## ■□■発表者・司会者紹介■□■

### エリック・ブノワ **Éric BENOIT**

ボルドー・モンテーニュ大学教授。同大学にて研究センター「モデルニテ」及びTELEMの代表を務める。19・20世紀のフランス文学を専門とし、特にステファン・マラルメの詩について多数の著書及び論文を発表。著書に『ベルナノス：文学と神学』（Cerf, 2013年）、『やさしい言葉で読む聖書』（Ellipses, 2009年）、『響き渡る虚無：マラルメ、あるいは逆説の横断』（Droz, 2007年）、『意味の危機から意味の探求へ：マラルメ・ベルナノス・ジャベス』（Cerf, 2001年）等。

### 津森 圭一 **Keiichi TSUMORI**

新潟大学人文社会・教育科学系准教授。パリ第3大学博士（フランス文学フランス文明）。専門はフランス文学、風景論。プルーストを中心とした近代フランス作家の風景観に関心を持っている。著書は *Proust et le paysage : des écrits de jeunesse à la "Recherche du temps perdu"*, Paris, H. Champion, 2014. 編著として『象徴主義と〈風景〉』（坂巻康司, 立花史, 津森圭一, 廣田大地編）水声社, 2018年がある。

### 熊谷 謙介 **Kensuke KUMAGAI**

神奈川大学外国語学部教授。専門はフランス文学・表象文化論。フランス移民社会への関心から、日本やヨーロッパでの多文化共生をテーマに講義も行っている。近年は男性性などジェンダーの観点から、文学や芸術作品を読み解いている。パリ＝ソルボンヌ大学博士課程修了（文学博士）。著書に *La Fête selon Mallarmé* [マラルメによる祝祭], L'Harmattan, 2008. 編著に『破壊のあとの都市空間』（青弓社, 2017）, 共著に『〈68年〉の性』（青弓社, 2016）, 『悪女と良女の身体表象』（青弓社, 2012）, 共訳に『古典BL小説集』（平凡社ライブラリー, 2015）などがある。

### 中里 まき子 **Makiko NAKAZATO**

岩手大学人文社会科学部准教授。文学博士（トゥールーズ第2大学）。近現代フランス文学が専門。著編書に『トラウマと喪を語る文学』（朝日出版社, 2014年）, 『無名な書き手のエクリチュール：3.11後の視点から』（朝日出版社, 2015年）, 『文学における宗教と民族をめぐる問い』（朝日出版社, 2017年）, 論文に « La voix et le silence de Jeanne d'Arc écoutés par Péguy », *Voix de Péguy, échos, résonances*, Classiques Garnier, 2016 等。

### 川村 和宏 **Kazuhiro KAWAMURA**

岩手大学人文社会科学部准教授。専門は、ドイツ語圏の児童文学、錬金術思想や貨幣論、ICT 外国語学習教材開発など。

### 高橋 愛 **Ai TAKAHASHI**

岩手大学人文社会科学部准教授。学術博士（広島大学）。専門は、ハーマン・メルヴィルを中心としたアメリカ文学、多読授業等の英語教育など。